

事務事業名	農業用廃プラスチック適正処理事業				担当	産業部 農政課 農業振興係		
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～			☐ 総重（総合計画重点事業）	☐ 総新（総合計画新規事業）		
施策名	1	農業の振興			☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 戦新（総合戦略新規事業）		
関連個別計画					事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠	農業用廃プラスチック適正処理事業費補助金交付要綱					☒ 毎年度実施（開始年度 R4 年度～）		
予算科目	1.一般会計	6.農林水産業費	1	4		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
予算科目								
予算科目								
事業概要	JAはが野が実施する農業用廃プラスチックの適正処理事業を通じて、市内農家から排出される使用済み農業用プラスチック、ビニール等の農業生産資材廃棄物のリサイクル等の適正な処理を推進し、本市農業の振興及び農村環境を保全することを目的に、補助金を交付するもの。 補助額は、処理額の1/5、補助金上限600万円。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
6年度実績 補助金交付事務 ・農業用廃プラスチック適正処理支援事業 事業主体：園芸特産連絡協議会（JAはが野事務局） 農業用補助額：4,512,099円 受益農家：計600名（真岡地区336名、二宮地区264名） 7年度計画 前年度同様に実施を予定				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
				ア	農業用廃プラスチック適正処理事業補助金	千円		4,313	4,945	4513	5440
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
				② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移			
市内農業者				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
				ア	市内販売農家数（センサス）		-	-	-	-	-
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
農業生産資材廃棄物のリサイクル等の適正な処理を推進				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
				ア	支援を受けた農家数	戸		659	626	600	650
				イ	処理量	t		300.1	273.8	248.7	350
				ウ							
				エ							
				オ							
				(2) 総事業費の推移		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	4,945	4,513	5,440		
			一般財源	千円	0	4,313	0	0	0		
	事業費計（A）		千円	0	4,313	4,945	4,513	5,440			

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 農業生産資材廃棄物のリサイクル等の適正な処理を推進することにより、本市農業の振興及び農村環境を保全につながることから、市の政策に結び付く。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 農業生産資材廃棄物のリサイクルの適正な処理を通して、農村環境の保全につながることから、公的関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) JAはが野の適正処理事業を通じた農業者支援により、環境保全につながることから、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) 農業団体であるJAはが野を通じた事業を支援することにより、環境保全につながることから成果を向上させる余地はない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる (類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない (類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 農業団体であるJAはが野を通じた事業を支援することにより、効率的な支援につながることから、事業費の削減余地はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性 (改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☐ 見直し (☐ : 目的妥当性 ☐ : 有効性 ☐ : 効率性) ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性																						

4. 事務事業の 2 次評価結果 (事業の総括と事業の方向性)

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足 (説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																						